

田原坂

年刊
Tabaruzaka
Vol. 4

特集 熊本籠城をふりかえる

三三〇〇名×九一〇〇名
孤城無援五十二日!!

発掘調査から見た戦況

女性も強し
籠城逸話

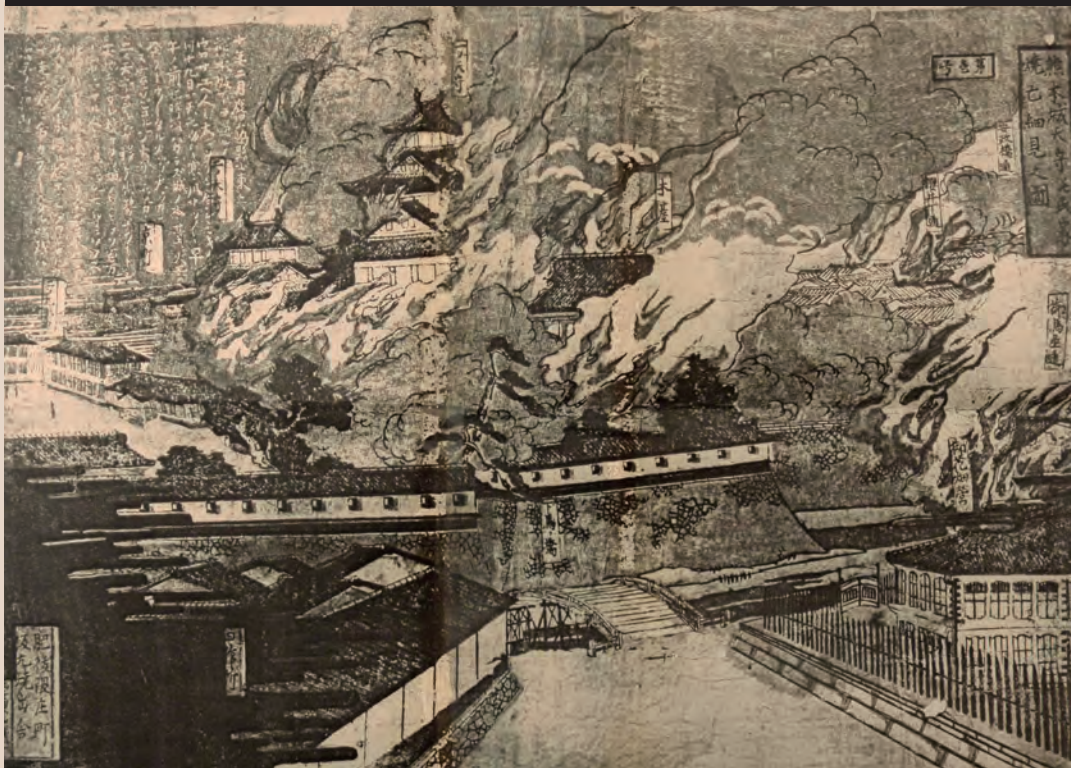
天道ハ是カ非カ

運命ノ帰スル所又 如何トモナシ難シ

新しく生きよう。

NEO ONE
KUMAMOTO

特集 熊本籠城をふりかえる



田原坂絵入新報

一発行所一
熊本市田原坂
西南戦争資料館

明治10年
4月15日

求ム！復興城主

・どなたでも可
・一万円以上のご寄付で、
あなたも「熊本城主」
・募金は桜の馬場城彩苑等で

熊本城火ヲ失ス

明治一〇年二月一九日
午前一一時頃、熊本城Ⅱ
熊本鎮台から突然火の手
が上った。火元は鎮台本
営。この火災によって鎮
台本営Ⅱ本丸御殿・大小
天守ほか本丸上段の建物
が焼失した。出火原因は
不明である。

火災を目撃した城下の
人は「お城は窓から凄ま
じい火焰を吹いて、強風
が黒煙を竜巻のように空
高く巻きあげ、城下の
街々へ火の粉を降らして
いた。声をあげて泣く
武士や念仏を唱える老
人、身を震わせる人た
ちがいて、父も泣いた。私
も泣いた。弟も声を上げ
て泣いていた。」と話し
た。清正公築城以来、先
祖代々、仰ぎみてきた熊
本城への愛着と悲痛が伝
わってくる。

「熊本城天守井民家焼亡細見
之図」

表紙 薩摩軍少年兵の山口雄吾

田原坂美少年のイメージキャラクター〈画：榎木成香〉
「呪詛、なのか。城は黒く、大きく、そして落ちない。
まるで藤公がわが城には指一本触れさせぬとばかりに、
そこに覆い被さっているようだった、と聞いた。思わず、
雄吾は身震いし噓をした。荻迫の春の夜はまだ寒い。」

籠城戦記 「唯今戦争始メ候」

明治一〇年二月一四日、熊本鎮台は籠城を決議。
以後、城内の守備強化に努めた。

二月一九日征討令布告。二二日には城下において
小戦闘があり、籠城軍は「唯今戦争始メ候」と打電
した。翌二二・二三日には薩摩軍による総攻撃があ
るが、政府軍はよくこれを防ぎ、薩摩軍は以後、攻
城方針を長圍戦へと切り替える。籠城は四月一四日
までの五二日間続き、その間、熾烈を極めた三月
一二・一三日の段山の戦い、同二七日の京町口出撃
戦、四月八日の突圍隊・侵襲隊による包圍突破戦
などの攻防もあった。

本紙は、熊本城攻防戦の模様を様々な角度から報
ずる。

二月二二・二三 日 薩摩軍による熊本城総攻撃。

二月二四 日 薩摩軍の嶽の丸、厩橋、県庁、片山邸、
千葉城等攻撃不成功。

二月二七 日 千草小学校の偵察戦。

三月二一・二三 日 段山の戦い。

三月二七 日 京町口の出撃。

四月八 日 突圍隊（安巳橋より囲みを衝いて援軍に
合す）一六時、宇土に達し衝背軍に連絡
を通じた。侵襲隊（安巳橋及び明午橋を
侵襲する）子飼渡付近で対戦。九品寺で
糧米、小銃、弾薬を確保。一六時、城内
に収まる。

四月一四 日

第二突圍隊編成中、一六時頃薩摩軍が包
囲を解く。衝背軍別働第二旅団の先鋒山
川浩中佐が入城。

時事解説

城攻めの兵力

籠城戦では一般的に攻城は守兵の少なくとも三倍程度の兵力が必要とのこと、いかな天下無双の金城湯池熊本城といえども、最適な攻め方をすれば貧弱な火力しか持たない薩摩軍にも勝機はあったと考えられる。城攻めには平攻め、兵糧攻め、火攻め、水攻めなどがある。薩摩軍は平攻めで強攻を仕掛け、後の長囲兵糧攻めも貫徹できなかった。また、火攻めをしようにも城下は既に丸焼け、天守もない。水攻めでは兵力不足を見破られた。

近世城は堅守に特化し発達した城である。籠城を落とすには援軍を退け、力攻めのほかに講和、調略、威嚇あるいは内通など、守城側の戦意を挫いて戦いを継続できなくする心理戦術が必要であった。薩摩軍の降伏勧告の矢文は逆効果だったようだ。火力の点では、主用の四斤砲程度の小火力には城

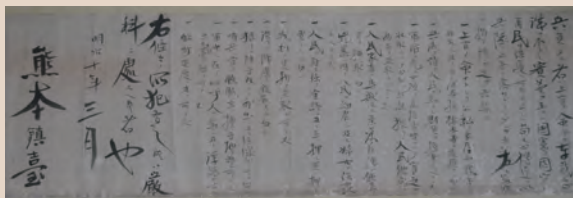
主要な火力の性能

四斤砲：射程2600m・重量200kg・砲弾重量4kg・総薬量240g
 12ドイム白砲：射程800m・重量70kg・砲弾重量6kg・炸薬量350g
 20ドイム白砲：射程1500m・重量670kg・砲弾重量22kg・炸薬量1000g
 エンフィールド銃・スナイデル銃：射程1100m・重量4kg・鉛弾重量30g

を破却する力はなかっただろう。高石垣上の建物は木と土でできており、柔構造である。砲弾が爆発しても壁は木舞土壁、屋根や床は抜け火は出るが、城全体に与える影響は大きくなかった。会津戦争の若松城の痛々しい姿はそれをよく表している。

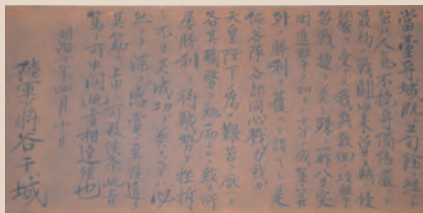
不足する兵糧と高い死傷率、長い籠城期間が籠城士卒の士気や覚悟、一体感を結果として高め、辛苦が続いた籠城戦を戦い抜いた。籠城士卒にとつて熊本城は最も強く、頼れる陣地として、母御のごとく無上無比の存在に感じられたことだろう。

熊本籠城戦は西南戦争の雌雄を決する一大決戦で、鎮台司令長官谷干城は「本臺ノ存亡ハ西國一般ノ人心ニ関スル」として、籠城の成否は国の行く末に関わる重大事項と考えていた。籠城戦終結をもつて、西南戦争は事実上終結したとすることもできる。薩摩軍は戦術目的が不明確な上、鎮台兵を侮ったのが最大の敗因ではないだろうか。



《紀律》と《賛辞》士気高揚のため
 西南戦争時は徴兵令交付からまだ四年。忠誠心をもち、命令に絶対服従の軍隊組織を兵に理解、定着させるのは容易ではなかった。

籠城二週間が経過した頃、薩摩軍の勢いは強く、先の見えない戦いの中、軍は將兵の軍紀を引き締め、士気を維持する必要がある。そこで三月五日、鎮台兵に対し、軍紀を説いた法令書を出す。こ



れが「鎮台告諭」（上写真）である。内容は一般の人民に危害を加えないことや、捕虜の扱いなど、規律正しくし、名誉を落とさないよう諭すものである。また功績に対しては上官が「感状」という表彰状で称える。下写真は籠城中四月八日の突圍隊攻撃の成果を特に賞賛する、陸軍少将谷干城より出された感状である。

■戦死傷者多数■

熊本城籠城戦では政府軍三三〇〇名が籠城した。内訳は鎮台兵約二八〇〇名、東京警視隊約四八〇名、その他に士官家族・県知事・官吏などである。戦死者は二五〇名前後、負傷者は五六〇名程と、籠城者の約二五パーセントが戦死傷者となっている。

一方薩摩軍については正確な資料がないものの、二月一四日から一七日にかけて順次鹿児島を出発し、二月二二日と二三日に最大約九〇〇〇、一〇〇〇〇名の人数が熊本城を囲んだと推測される。熊本城での戦死者は一〇〇〇名程とみられる。

□絵画鑑賞



錦絵「鹿児島島の賊軍熊本城激戦の図」
 熊本城に籠城した熊本鎮台兵を攻撃する薩摩軍を描いているが、事実とは異なる描写も見られる。



熊本城総攻撃

堅城鉄壁銀杏城

二月二日早朝、薩摩軍は熊本城II熊本鎮台への総攻撃を開始。ここに、西南戦争における本格的な戦いの火蓋が切って落された。

薩摩軍は、兵力を正面軍・背面軍の二隊に分け、加えて花岡山などからの砲撃を行なった。正面軍は長六橋・代継橋・安巳橋・明午橋から白川を越えて城下に進出。南東側の県庁・下馬橋・千葉城、北側の埋門に迫った。背面軍は北岡・花岡山方面から西側の段山・藤崎宮・法華坂に迫った。特に熊本城の弱点とされる段山方面には兵力を投入し、ついにはこれを占拠する。

2月22日、砲撃開始

籠城軍は、砲台・砲壘・柵・壕を築き、地雷を埋設するなどの準備を進めてきた。段山付近の攻防では、死傷者が多かったものの、援軍を動員するなどして城内への進攻を防いだ。巡查喜多平四郎は「ここより突入させなかつたのは砲兵営付近を守った東京城兵の大勳励で、勇というべし強というべし。」と語った。総攻撃は二三日も続くが、熊本城は陥とせず、薩摩軍は長岡戦に方針を切り替えることとなった。

西郷隆盛の動向

その時、西郷は

二月二二日の総攻撃の最中、大将西郷隆盛は熊本城の外堀に相当する白川対岸沿いの代継宮にいた。攻防戦の激しい銃砲・喊声が聞こえる場所であり、ここで五番大隊長池上四郎からの戦況報告を受けている。その晩は近くの紺屋松島善七方に宿泊。後日、城下を見晴らす高台にある北岡神社に移り、三月一七日には西郷の居場所を察知した政府軍の砲弾が付近に飛来するようになったため、少し離れた二本木米穀商筵屋島居方に移っている。

劍豪宇都宮良左衛門

法華坂に死す！

背面から二の丸に登る法華坂でも「戦い頗る激烈」な攻防があった。

攻めあぐねた薩摩軍の中には、政府軍のものに擬した旗を振りながら進撃する者がいたが、薩摩軍と発覚して銃弾に斃れてしまう。この人、六番大隊小隊長宇都宮良左衛門である。「刀法絶倫」肝力を備えた将士で、大警視川路利良からも高く評価され、政府軍への任官要請を断つての挙兵であった。

籠城、五日

籠城逸話

熊本籠城戦に参戦した人々に、その様子についてうかがった。

大磯彦六さん（薩摩軍攻城兵）

「村田三介隊が植木で分捕った一四連隊旗を壘上に立てて城兵に大声で、見よこの旗は天がわれらの忠誠に感じて下賜賜ったものだ。お前たちはこれを取り戻してみよ。内に軍糧なく、外に援兵なし。なのになぜ孤城を守る。すぐに誤りを正し、非を悔いて甲を脱ぎ銃を捨て我が軍門に降れば寛大に処する。」と言ったが、城兵は望遠鏡でこちらを熟視し、激しく攻撃してきた。」

樺山資紀さん（熊本鎮台参謀長）

「與倉知實一三連隊長夫人の鶴子さんは、夫の戦死を知らずに出産すると云う、いやもう実に目も当てられぬ惨状であった。婦人も一度死を決すると、存

女性も強く、共に戦った

外強いもので、谷將軍夫人や、與倉母堂や同夫人その他各将校の夫人等は、城中のそこかしこに野生しておる野蒜を摘んで、ひたし物をこしらえて余等をいたわってくれた。これは、いわゆる苦中の樂とも云うべきものであった。」

與倉夫人は二二日早朝に産気づき、出産した。同日、與倉連隊長は戦死したが、周囲は軽傷ということしてショックを受けないよう配慮したが、夫人は「私も軍人の妻です。本当のことを言ってください。」と、毅然と答えたという。

籠城中に困ったこととはという問いに対し、食事、遺体の埋葬、糞尿の処理、土気の持続、といった回答が多い。ちなみに、最も嬉しかったことは、四月一四日の熊本城解放だそうだ。食料事情はとくに厳しく、米が無いとなると犬・ネコ・ネズミ・カエルと食べられるものはことごとく食べつくしたという。当初、そここにいた犬もやがて城中で見かけなくなつたそうだ。

Weather Report

明治10年熊本城周辺 お天気概要

2月		
4日	20日	4日
5日	21日	5日
6日	22日	6日
7日	23日	7日
8日	24日	8日
9日	25日	9日
10日	26日	10日
11日	27日	11日
12日	28日	12日
13日	29日	13日
14日	30日	14日
15日	31日	15日
4月		
1日	17日	1日
2日	18日	2日
3日	19日	3日

※喜多平四郎「從西從軍日誌」に拠る

註記		名	稱
兵火ノ為消失シタル部	地雷		
鹿柴又ハ竹柵	砲兵ノ掩體	砲兵隊	警視隊
胸壁現今ノ散兵壕	砲兵隊	砲兵隊	砲兵隊
		官軍	賊軍

熊本城守城部隊配備要圖(其一)

明治十年二月二十二日二十三日に於ケル

『熊本城史梗概』



・熊本城守城部隊配備要図(其一)

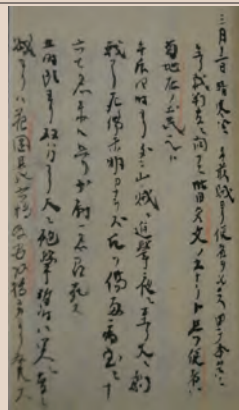
熊本城総攻撃における政府軍の部隊配備、薩摩軍各隊の動きを示した図。

守る政府軍 3,300 名、攻める薩摩軍 9,000 ~ 10,000 名による「大小砲声轟天殺傷相当」という激しい戦い。

「別に方略なし」と正面衝突を試みた薩摩軍であったが、堅城鉄壁の熊本城は落ちなかった。

右写真は三月一二日の頁で、激戦となった段山の戦闘のことが記されている。

本原軍医は益城郡矢部上寺村出身であり、明治一〇年二月一八日、帰省願ひ中に薩摩軍の挙兵に伴い、熊本鎮台病院付を言い渡され、翌一九には鎮台本営付となる。



況と戦況を記した日誌である。

軍医の日誌

詳細な記録

この籠城日誌は、熊本鎮台兵とともに籠城した本原義實軍医が三月一日から四月十九日の間、籠城中の状況と戦況を記した日誌である。

更には芸達者も多く、城内で寄席が開かれ、それぞれが持ち芸を披露して、退屈をしのぐこともあった。

病人たちを慰めたそう。

籠城中、病人に食べさせるものがないというのが情けないことで、何か珍しいものを作って、病人に食べさせようという話になった。軍隊の中には豆腐屋の息子がいて、城下の町家から道具をかき集め、豆腐を作らせる。また飴屋もいたので、こちらには飴菓子を作らせた。こうして病人たちを慰めたそう。

餅は餅屋、豆腐は

攻 防

拠点―飯田丸

飯田丸は熊本城の南側の防御を担う重要拠点として設けられた。このことは熊本城籠城戦において証明される。

飯田丸における砲撃戦は、城内各拠点のなかで最も激しいものであった。飯田丸には四斤砲二門と臼砲一門が置かれる。さらに兵器庫や野砲工廠があり、小銃などの修理や弾薬の供給も行うなど、特に臨戦体制が強化されていた。

正面突破を試み、城近くまで進出してくる薩摩兵への攻撃だけでなく、安巳橋・山崎・花岡山・段山など多方面に配備された砲台への砲撃も活発に行った。寺原に新たに砲台を築こうとするところを砲撃によって阻止した、という記録も残っている。

こうした攻撃拠点は、当然、薩摩軍からの攻撃目標ともなる。薩摩軍の砲弾が兵器庫に着弾し、屋根が蜂の巣のようになってしまった。榴霰弾によるものであろう。庫内の武器が破壊され、急遽、小銃を修繕するなどの慌しい対応もあった。戦況が膠着した三月中頃以降も、飯田丸においては激しい砲撃戦が展開されたのである。

改 変

近代戦への対応

西南戦争時、飯田丸の櫓建物は全て撤去されており、砲台はその跡地に設置された。また、石垣の内壁は根元の一石を残して撤去されていた。砲弾が当たった際に石材が飛び散って危険であることから講じた事前措置である。

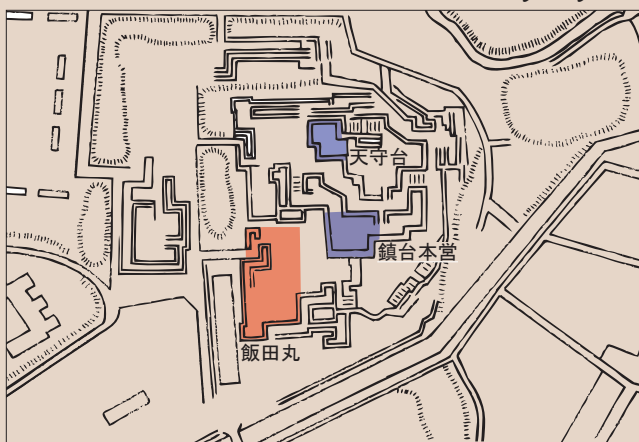
築城から時代を経た近代に至っては、戦いの形が砲戦中心へと変化していたことを示すものである。

戦 況

発掘調査出土品からみる

飯田丸における発掘調査により出土した小銃資料では、エンフィールド銃弾とスナイドル銃薬莢が多い。エンフィールド銃弾は殆どが未使用品である。予備的な配備であったため、結果的に殆ど使用されなかったのであろう。多量の銃弾がまとまって出土した箇所もある。一方、スナイドル銃は、薬莢は出土するものの銃弾は一点も出土していない。

今日の視点 ―熊本城飯田丸― Today's Eye



飯田丸 熊本城郭の南よりに位置し、熊本鎮台本営の南西側にあたる。江戸時代には飯田丸五階櫓が置かれ、櫓と塀に囲まれた飯田丸は、熊本城本丸南側の防衛の要であった。

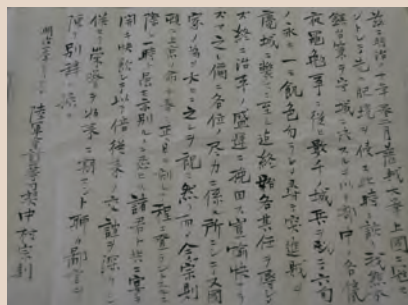
火砲資料では摩擦管と砲弾片（四斤砲弾・臼砲弾）が出土している。安巳橋・花岡山・山崎の薩摩軍砲台から飛来したものである。摩擦管は大砲の発射時に用いられ、その度ごとに廃棄されるものである。摩擦管が多く出土した位置は砲台の位置を示すと考えられ、それによれば、五階櫓台と西櫓御門に砲台が設置されていたことが判る。スナイドル薬莢の出土位置も摩擦管と同様である。砲台の側に銃卒が配備され、薩摩軍との攻防に鎬を削っていたことが、出土品の位置から想定できる。

戦友への別れの辞

「一時ト雖モ亦別ルルニ忍ヒス」

中村宗則は会計部司契副で、籠城戦時は食糧調達の担当者であった。明治一〇年一〇月二二日に、戦時費用決算のための出張が命じられる。この際、中村は短期の出張にもかかわらず籠城戦の勝利を称え、宴を開いて戦友たちとの別離を惜しみたいといった内容の「別辞」を書く。

短期の出張時にこのような「別辞」を書き、宴を開いて戦友たちとの一時的な別離を惜しむなど、あまり例がなく、いかに西南戦争が、特に熊本城籠城戦が中村にとって、重大な事件であったかをよく示している。終戦後ひと月を経てもなお和らが緊緊張感がみなぎり、また、籠



城中には一兵の落伍者もでなかつたと伝わることから、当時の熊本鎮台の結束力の強さを示す貴重な資料といえる。

今日の一句

思ひきや 吾が守るべき 城の内に

あだをこめつつ 今攻めるとは

下通町出身 塩川成海さん（熊本隊）

炎上前の鎮台本宮 西洋風の熊本城内

復元整備により、平成二〇年から一般公開された本丸御殿。ここには、明治七年から焼失する明治一〇年二月にかけて熊本鎮台本宮が置かれていた。



谷干城がいた鎮台本宮室内

復元工事に先立って行なわれた発掘調査では、焼けた土の中から大量のガラス窓片の他、イギリス製のローゼット（電信の配線に用いる器具）・ドアノブも出土した。近くからは洋風の上げ下げ窓に用いる鉄製の滑車も出土している。

これらは、本丸御殿が近代軍隊の本宮に相応しい姿に改変されていたことを示している。



熊本城より
本丸御殿
出張展示
熊坂資料館へ

戦争にかかわる出土品を移設展示している（平成三〇年三月三一日まで）。

本丸御殿復元に先立って実施された発掘調査の際の出土品であり、特に小広間から出土した印章「熊本鎮台之印」（公印）・拳銃スミス・アンド・ウェッソン（士官以上の所持品）は、そこが鎮台本宮の中枢部であったことを示す。その他にも、双眼鏡や水筒、制服のボタンなど、軍隊に関連する品々が当時の鎮台本宮を彷彿とさせる。



新報



西郷隆盛は攻囲を解くとき「清正公に負けたようなものでござす」と語ったという。乃木希典も、加藤神社に清正を讃える祭文を奉納した

◆一方で谷干城は「杉を屠り杉盡きて又馬を烹る 屈せず三千一致の兵」と賦し、桐野利秋は「天道は是方非方、運命ノ帰スル所又何トモスルコトナキノミ」と熊本隊古閑俊雄の問いに答えた◆勝敗のとらえ方は様々だが、戦いに天や地や人など、人智の及ばぬ何かを感じ取っていたのだろう。鎮台軍には樺山資紀、児玉源太郎、川上操六などの陸軍を背負う錚々たる顔触れがそろっていた◆戊辰の戦ではこれら諸将は新政府軍として戦い、一〇年後には敵味方に分かれた。昨日の味方は今日の敵に、敵は味方になつてしまった。城に最初に入った山川浩は出陣の折「薩摩人みよや東の大丈夫が下げ佩く太刀は利きか鈍きか」と詠んだ◆政府軍でも薩摩軍でも、大勢の若い人達が傷つき、斃れた。日本近代化の礎とはいえ、大きな損失であったことは疑いが無い。

情報求む

田原坂西南戦争資料館では、西南戦争に関わる情報を探しています。従軍された方の話や、西南戦争を経験された方の話、関連の品々などございましたらご一報ください。

熊本市文化振興課植木分室
TEL 〇九六・二七二・〇五五

雨ノチ朝 配布開始

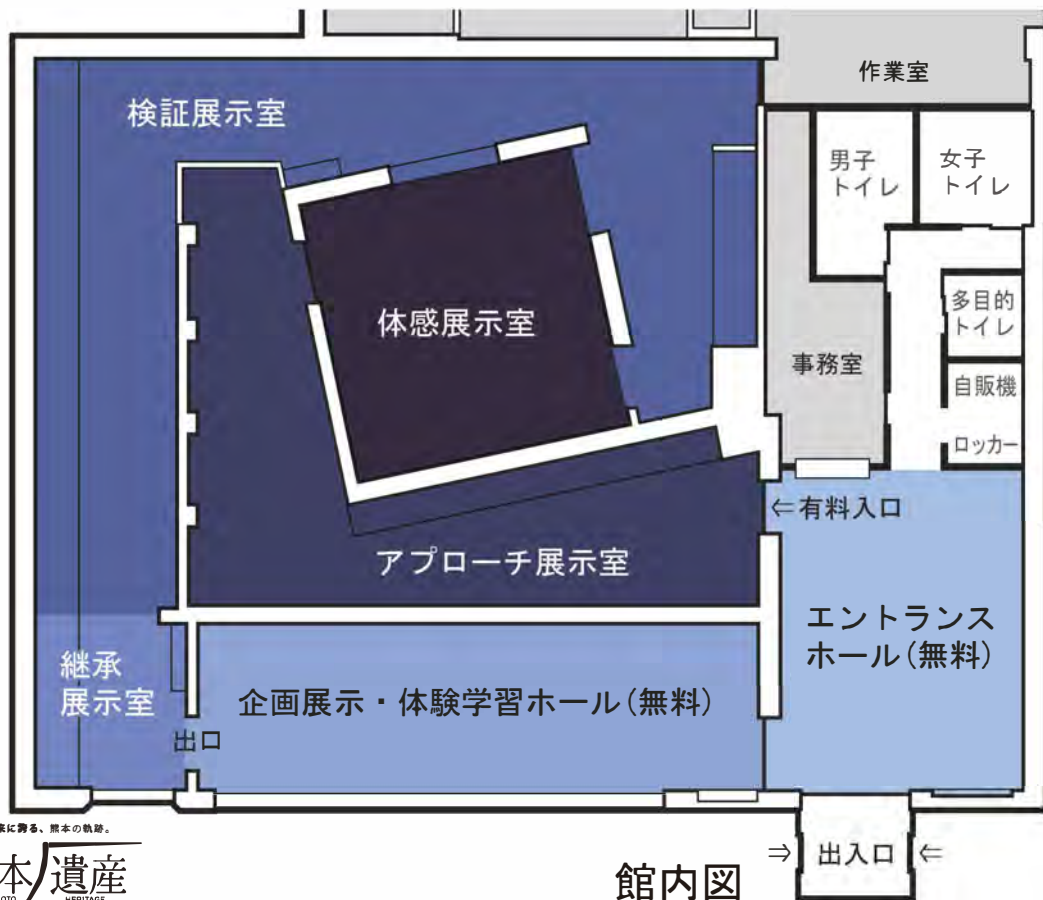
「西南戦争」が遺したもの

西南戦争ストーリーを紹介する飛び出すブックレット！

発行 熊本市文化振興課

年刊 田原坂 vol.1~3 絶賛配布中





利用案内

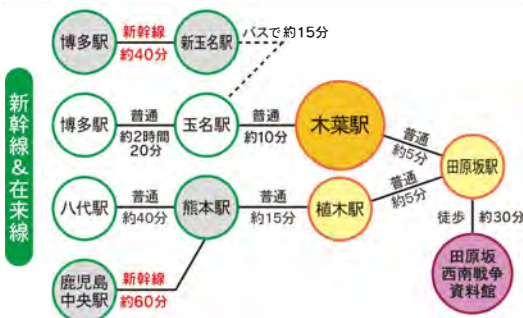
- 開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで) ■休館日 12月29日から翌年1月3日まで
- 入館料 一般(高校生以上) 個人300円 団体(20名以上) 240円
小・中学生 個人100円 団体(20名以上) 80円

ただし乳幼児、障害者手帳をお持ちの方、熊本市、鹿児島市、福岡市、北九州市に居住する65歳以上の方(証明できるものを提示)と同市内の小・中学生(名札か生徒手帳提示)等の入場は無料です。

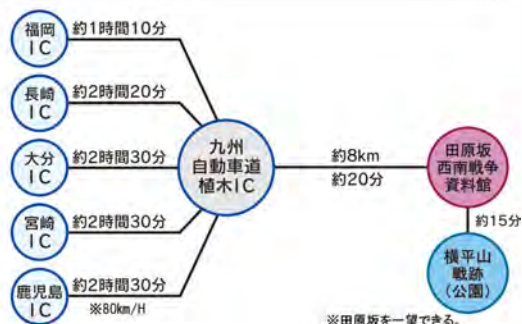
交通案内

2022年7月訂正

JRをご利用の場合



自動車をご利用の場合



お問い合わせ

熊本市文化財課植木分室

〒861-0195 熊本市北区植木町岩野238番地1
☎ 096-272-0551

熊本市田原坂西南戦争資料館

〒861-0163 熊本市北区植木町豊岡858番地1
☎ 096-272-4982

